

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地				
大阪ハイテクノロジー専門学校		昭和62年4月1日	橋本 勝信	〒 532-0003 (住所) 大阪市淀川区宮原1-2-43 (電話) 06-6392-8119				
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人 大阪滋慶学園		昭和62年4月1日	浮舟 邦彦	〒 532-0003 (住所) 大阪市淀川区宮原1-2-43 (電話) 06-6392-8119				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
文化・教養	文化・教養専門課程	スポーツ科学科	平成22(2010)年度	-	平成26(2014)年度			
学科の目的	本学科は、競技スポーツ、生涯スポーツ、地域スポーツなどスポーツに関わる様々な場面において、コンディショニングや障害の予防・管理、運動指導等を提供できる人材育成を目的とする。特に実践力を高めるために、現場での実習に重点を置いた教育指導を行う							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	取得目標資格:アスレティックトレーナー、健康運動実践指導者、JATITレーニンング指導者 当初入学人数23名、中途退学1名							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,920 単位時間	720 単位時間	990 単位時間	210 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			〇〇 単位	〇〇 単位	〇〇 単位	〇〇 単位	〇〇 単位	〇〇 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)					
80人	41人	0人	0%					
就職等の状況	■卒業生数(C)		22	人				
	■就職希望者数(D)		18	人				
	■就職者数(E)		18	人				
	■地元就職者数(F)		13	人				
	■就職率(E/D)		100	%				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		72	%				
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		82	%				
	■進学者数		1	人				
	■その他							
	その他3名に関しては自己決定等							
(令和5年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等		(令和5年度卒業生) アレックス脊椎クリニック、かたぎり塾、株式会社ピーナス、株式会社BCF、株式会社リフレッシュハンズ、サンライズ、株式会社ポラリス、キックボクシングジム、にほん整体株式会社、株式会社ファクトリージャングループ、株式会社prime coco、(株)幼少児体育振興会、RIZAP株式会社、ティアモ枚方						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 一般社団法人 専門職高等教育質保証機構 受審年月: 平成31年2月 評価結果を掲載したホームページURL: https://qaphe.com/result/techgraduate/osaka-hightech/							
当該学科のホームページURL	https://www.osaka-hightech.ac.jp/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数		210 単位時間					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		180 単位時間						
うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間						
うち必修授業時数		90 単位時間						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		90 単位時間						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		180 単位時間						
(B: 単位数による算定)								
総授業時数		〇〇 単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		〇〇 単位						
うち企業等と連携した演習の授業時数		〇〇 単位						
うち必修授業時数		〇〇 単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		〇〇 単位						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		〇〇 単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		〇〇 単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		0人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		3人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人					
	計		3人					
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		2人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

スポーツ・健康分野は常に行政の動向や社会のニーズを把握し、業界の情報を収集して学校教育に反映させることが求められている。さらに対人援助職として求められるコミュニケーション能力などの社会人基礎力についても、業界からの意見を反映して教育指導にあたらなければならない。業界などの意見を計画的に収集する手段の一つとして、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は理事会直轄の独立した委員会組織であり、学内の教務部や事務部とは別に運営される組織である。教育課程編成委員会の位置付けについては、「学校法人大阪滋慶学園 教務組織規則」「学校法人大阪滋慶学園 教育課程編成委員会規定」および組織図に明記されている。教育課程編成委員会の意見は学校内で十分に検討した上で、学科のカリキュラムや教育指導内容に反映する。反映にあたってはスポーツ科学科の学科長をはじめとする学科教員が主体的に行い、必要に応じて教務部長、事務局長、学校長と相談・了承のうえ反映する。学則変更を伴う場合は、理事会の承認を得たうえで反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
橋本 勝信	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
福土 暁也	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
安達 隆之	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
矢野 昌人	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
井上 佳子	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
鈴木 次郎	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
川村 智広	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
藤江 洋志	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
澤田 正二	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
泉谷 信行	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
関谷 俊範	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
尾沢 怜子	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
上田 忠佳	物産アニマルヘルス株式会社開発本部 池田動物細胞医薬センター 主席部員	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
永井 慎	NPO法人 日本バイオ技術教育学会 理事 岐阜医療科学大学 保健科学部 臨床検査学科 准教授	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
赤澤 夏郎	株式会社プレンプロジェクト 代表取締役	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
鈴木 謙三	マテック八尾(八尾経営・技術交流会)会長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
影石 言光	滋賀県運動・スポーツ実施率向上検討委員会委員	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
中武 大輔	株式会社 サップス	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
田村 智雄	公益社団法人 大阪府柔道整復師会 淀川支部	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
乾 紘	株式会社GENKI	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
尾崎 卓宏	ホリスティックメディカルジャパン 代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③

志和 輝彦	有限会社 J-RADIANCE かがやき整骨院 代表取締役	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
丹波 徹二	公益社団法人 大阪府鍼灸師会 理事	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
嶋田 琢磨	しまだ鍼灸訪問治療院	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
杉浦 正人	関西医科大学香里病院 臨床工学技士	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
宮本 哲豪	一般社団法人 大阪府臨床工学技士会理事 理事 在日本南プレスビテリアンミッション淀川キリスト教病院(課長)	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
小嶋 宏典	社会医療法人 祐生会 みどりヶ丘病院 医療技術部 臨床工学課 課長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
徳永 政敬	一般社団法人 兵庫県臨床工学技士会 理事	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
村川 圭三	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
藤田 秀樹	公益社団法人 大阪府診療放射線技師会 副会長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
氏浦 亜由美	マイヘルスクリニック 心斎橋院 放射線科 技師長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
福西 康修	公益社団法人 日本放射線技術学会 近畿支部 幹事	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	②

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回の実施(6月・1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年6月27日実施 18:30～20:10

第2回 令和6年1月18日実施 18:30～20:10

第1回 令和5年6月30日実施 18:15～20:10

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- ・知識や技術の習得は必須だがサービス業としてサービスマインドを持ち合わせた人材を業界は求めているという意見に対し、ビジネス検定を昨年より導入したが学生の関心は低く、成績も伸び悩んだ。実務レベルでのマナー講座の実施を検討している。
- ・学生に卒業後のイメージを早期から持たせることが必要ではないかという意見に対し、3年目になる2月のオンライン業界研究を11施設にご協力いただき実際にその後見学に行くところまでの動きにつなげることが出来た。今後はもう少し業種を広げていきたい。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 学生にとって卒後の働くイメージが高まる内容であること、企業にとっても利益がある内容であること

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 本学科は学外実習と学内実習との2つの実習を行っている。学外実習に関しては主に卒業研究や企業訪問実習などの産学連携授業を展開している。また、これらはスポーツトレーナーが活躍している実習先で、競技特性に合わせた技術やスキルを学ぶことや、社会の一部に触れることによって、社会人基礎力を含めた総合力を身につけることを素地としている。さらに、企業(担当者)には最先端の知識や技術を教えていただけるように前もって調整を行っている。学内実習においては、専任教員が担当している社会人チームやスポーツイベントに学生と共に教員が帯同し知識や技術を養っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
卒業研究	自らの興味関心のあるテーマに沿って研究活動をすすめる	貴島病院本院、整形外科なかむらクリニック、渡辺整骨院、スポーツクラブZEOS泉佐野、PEP大阪、メディカルフィットネスルームTMCC、株式会社あらたか、WAFI鍼灸整骨院、マック体操クラブ、株式会社幼児体育振興会 他
トレーナー実習	運動指導の実際に触れ、自らも指導ができるようになること。業界の実際に触れ将来のなりたい自分をイメージすることにつなげる	株式会社アシックスコンプレクスSUITA、株式会社BCF、整形外科なかむらクリニック、はびきのヴィゴラス他

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

スポーツ・健康分野は行政の動向や社会のニーズの把握が重要であるため、教員自身が専門分野について学ぶための研修の充実が必要である。そのため、外部で開催される専門分野に関する研修や学会等には積極的に参加を促している。また、学生の変化(学力、意欲等)も多様化しているため、授業の方法などについても新たな取り組みが必要である。学校内でFD委員会を設置し教員を対象とした授業見学等の研修を実施している。学校内および学園内で実施する研修は原則として参加が義務付けられており、学外で実施される研修については、教員の代表者が出席してその内容について会議等で報告することとなっている。研修に於いては、学校法人大阪滋慶学園 教員研修規定に定められている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	JATI 第7回研修会	連携企業等:	NPO法人 JATIとレーニング指導者協会
期間:	2023年6月4日	対象:	JATIトレーニング指導者
内容	トレーニング指導に役立つ心理学知識とその活用方法、女子バスケットボールトップリーグに所属するチームのコンディショニング管理の実際		
研修名:	NSCA S&Cフォーラム2023	連携企業等:	NSCA JAPAN
期間:	2023年6月18日	対象:	CPT, CSCS
内容	ストレングス&コンディショニングに関する最新の動向		
研修名:	第12回日本アスレティックトレーニング学会	連携企業等:	日本アスレティックトレーニング学会
期間:	2023年7月8、9日	対象:	アスレティックトレーナー、教員、スポーツレーナー他
内容	VUCA時代のアスレティックトレーニングを問う-予測困難な未来を拓く創造と革新とは-		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	日赤指導員研修	連携企業等:	日本赤十字社大阪府支部
期間:	2023年6月1日	対象:	救急法指導員
内容	ガイドライン2020の伝達講習+実技確認他		
研修名:	令和5年度コーチディベロッパー研修会	連携企業等:	日本スポーツ協会
期間:	2023年6月10日	対象:	コーチディベロッパー
内容	アイスブレイク、成長課題の共有、ファシリテーション、成長計画の発表と改善、事後課題のフィードバック方法		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	AT教員ミーティング	連携企業等:	日本スポーツ協会
期間:	2024年8月20日	対象:	AT教員
内容	新カリキュラム移行のための実務に関する情報伝達他		
研修名:	第13回日本アスレティックトレーニング学会 学術大会	連携企業等:	日本アスレティックトレーニング学会
期間:	2024年9月14日～15日	対象:	アスレティックトレーナー、教員、スポーツトレーナー他
内容	アスレティックトレーニングを支える 経験・研究・教育の連携		
研修名:	第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会	連携企業等:	日本臨床スポーツ医学会
期間:	2024年11月16日17日	対象:	アスレティックトレーナー、医師、PT、他
内容	スポーツ医学の社会貢献		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	日本赤十字社救急法救急員指導員研修	連携企業等:	日本赤十字社大阪府支部
期間:	2024年3月9日	対象:	救急法指導員
内容	BLS講習、止血・三角巾の固定技術の再確認、実技試験の採点方法について		
研修名:	日本ライフセービング協会指導員更新講習会(オンライン)	連携企業等:	公益財団法人日本ライフセービング協会
期間:	2024年3月13日	対象:	インストラクター
内容	ガイドライン2020の情報確認、技術・知識のブラッシュアップ		
研修名:	令和6年度コーチディベロッパー研修会	連携企業等:	日本スポーツ協会
期間:	2024年7月7日	対象:	コーチディベロッパー
内容	アイスブレイク、成長課題の共有、ファシリテーション、成長計画の発表と改善、事後課題のフィードバック方法		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校の諸活動においてその方針と評価結果を公表することは、開かれた学校として当然の責務であり、また学校外の方々からフィードバックをいただくことは学校運営の改善につながることもである。

本校では「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、毎年、自己点検・自己評価を実施する。その結果について学校関係者評価委員会において説明を行い、学校関係者評価委員より評価をいただいている。学校関係者評価委員会には、学校長や教務部長などとともに、学校関係者の代表として学生の保護者、卒業生、高等学校、地域、業界からが委員として参画している。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・育成人材像、学校の特色、学校の将来構想
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事制度、意思決定システム、情報
(3) 教育活動	学科の教育目標、教育到達レベル、カリキュラムの体系化と科目配
(4) 学修成果	就職率、資格取得率、退学率、学生・卒業生の社会的活躍
(5) 学生支援	就職支援、学生相談、経済面支援、健康管理体制、課外活動、生活環
(6) 教育環境	施設・設備、学外実習、防災体制
(7) 学生の受入れ募集	募集活動、教育成果の開示、入学選考、学納金
(8) 財務	財務基盤、予算・収支計画、会計監査、財務情報公開
(9) 法令等の遵守	法令遵守、個人情報保護、自己点検・自己評価とその公開
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献活動、ボランティア活動
(11) 国際交流	国際交流の取組み

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会での議事内容、および学校関係者評価委員より得られた意見等は速やかに学内で討議を行い、必要に応じて具体的な改善を図る予定である。現状は退学率・資格合格率改善を目標に月1回教員全員参加の会議を行い、意見交換・事例発表等を行っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
福永 かほる	保護者代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	保護者代表
福菅 英子	保護者代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	保護者代表
久保 みのり	近隣関係者(北中島社会福祉協議会)	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	地域代表
高橋 絵吏	大阪信愛学院中学校高等学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	高等学校
胡本 晃敏	生命工学技術科卒業生 上野佐藤株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生代表
木村 政義	臨床工学技士科卒業生 兵庫医科大学病院	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生代表
小西 正和	ナカライテスク株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
坂本 俊雄	一般社団法人 i-RooBO Network Forum	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
臼井 達矢	学校法人 大阪成蹊大学	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
尾藤 何時夢	公益社団法人 和歌山県柔道整復師会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
堀口 正剛	公益社団法人 大阪府鍼灸師会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
山本 桂	一般社団法人 大阪府臨床工学技士会(医療法人 蒼龍会 井上病院)	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
難波 昭典	八尾市立病院 放射線科	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.osaka-hightech.ac.jp/school/disclosure>

公表時期: 2024年7月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

自己点検・自己評価結果等、学校運営や教育活動に関連する情報については、積極的に公開して広く社会に対する説明責任を果たすとともに、公正で透明性の高い運営を推進し、教育活動の改善や社会からの信頼の獲得に資することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	建学の理念、大阪滋慶学園について、学校の沿革、教育システムと教育
(2) 各学科等の教育	学科の教育目標、教育課程、学科紹介、学年暦
(3) 教職員	教員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	学外実習、学外研修の手引き、特別講義・業界講演、海外研修、卒業研
(5) 様々な教育活動・教育環境	入学前教育、資格サポート、就職サポート、施設・環境
(6) 学生の生活支援	学校生活サポート、Work & Study、クラブ活動・学生寮
(7) 学生納付金・修学支援	学費一覧、学費サポート、修学支援新制度対応
(8) 学校の財務	法人財務状況
(9) 学校評価	自己点検・自己評価と学校関係者評価、第三者評価
(10) 国際連携の状況	国際交流
(11) その他	社会貢献・地域貢献、高専連携、ボランティア活動

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.osaka-hightech.ac.jp/school/disclosure>

公表時期: 令和6年7月31日

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			情報学Ⅰ	コンピュータの基礎的理解と操作をもとに、文書作成や情報処理、更にはブラウザに関する技能を習得する。	1前	30	1	○		○				○
2	○			情報学Ⅱ	パワーポイントを中心に発表するための資料作成の方法や技術を習得する。	○	30	1	○		○				○
3	○			情報学Ⅲ	科学的な分析のための統計処理を習得するとともに、データを加工する方法を習得する。	○	30	1	○	△	○				○
4	○			滋慶選択科目Ⅰ	本校とグループ校で開講する選択授業科目の中から興味にあわせて自由に選択し、受講できる選択授業システム。	1前	30	2	○			○			○
5	○			滋慶選択科目Ⅱ	本校とグループ校で開講する選択授業科目の中から興味にあわせて自由に選択し、受講できる選択授業システム。	○	30	2	○			○			○
6	○			総合(社会人基礎力)演習Ⅰ	“職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事をしていくために必要な基礎的な力”を多角的な知見から習得する。	1前	30	2	○		○				○
7	○			総合(社会人基礎力)演習Ⅱ	“職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事をしていくために必要な基礎的な力”を多角的な知見から習得する。	○	30	2	○		○				○
8	○			総合(社会人基礎力)演習Ⅲ	“職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事をしていくために必要な基礎的な力”を多角的な知見から習得する。	○	30	2	○		○				○
9	○			総合(社会人基礎力)演習Ⅳ	“職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事をしていくために必要な基礎的な力”を多角的な知見から習得する。	○	30	2	○		○				○
10	○			研究計画法	自らがテーマを選定し、情報の収集から結果の検証、考察までを体系だてて習得していく。	○	30	1	○		○				○
11	○			卒業研究Ⅰ	自らが設定したテーマをもとに仲間と協力しながら必要な情報を収集する力を得る。	○	60	2	○		○				○
12	○			卒業研究Ⅱ	条件を設定し、統計処理をもとに論文として結果をまとめる力を得る。	○	60	2	○		○				○
13	○			トレーナー概論	スポーツトレーナーを目指すにあたって制度、役割、組織の運営と管理、倫理を学び、心構えを形成する。	1前	30	2	○		○				○
14	○			国際トレーナー論	海外研修を通じて国際的な視野からのトレーナーに関する技能習得や職業観について考える。	○	30	2	○			○			○
15	○			解剖生理学	人体の構造や生理学的な仕組みを学習し、生命の営みを理解する。生体の恒常性を考える。	○	30	2	○		○				○
16	○			機能解剖学Ⅰ	人体を機能的側面から捉え、骨・関節・筋に関する働きについて理解する。	1前	30	2	○		○				○
17	○			機能解剖学Ⅱ	筋の機能を中心に起始・停止、作用について習得する。	○	30	2	○		○				○
18	○			運動生理学Ⅰ	運動をすることによって起こる体の変化や適応状態についての基礎的な知識を習得する。	1前	30	2	○		○				○
19	○			運動生理学Ⅱ	運動することによる身体の変化や適応状態についての応用的な知識を習得する。	1後	30	2	○		○				○
20	○			体力科学/運動アロマニング	運動をすることによって起こる体の変化や適応状態についての基礎的な知識をもとに、実験を通じ生体反応を計測し運動処方立案する。	1前	60	4	○		○	○			○
21	○			スポーツ栄養学Ⅰ	スポーツ指導者として知っておきたい食事と栄養の基本、および一般人の健康維持増進のための食事や運動への取り組み方を習得する。	1前	30	2	○		○				○
22	○			スポーツ栄養学Ⅱ	スポーツ選手に栄養を指導する上で必要な基準やサポートの具体例を学び、サプリメントの基礎知識や関わり方を習得する。	1後	30	2	○		○				○
23	○			スポーツ指導論	スポーツ技術向上のための指導のみならず、健康増進や体力向上のためのスポーツ指導法について習得する。	1後	30	2	○		○				○
24	○			健康管理概論	健康づくりや疾病予防の基礎的な知識や考え方を理解し、各年代層に応じた健康指導を習得する。	1前	30	2	○		○				○
25	○			スポーツ社会学	スポーツと社会のかかわりや、文化としてのスポーツ指導およびその諸問題について習得する。またスポーツ行政について習得する。	1前	30	2	○		○				○
26	○			スポーツ心理学	運動による心理的作用の変化や効果・弊害を通して、ストレスマネジメントの基礎を習得する。	1前	30	2	○		○				○

56	○	トレーニング指導者論Ⅱ	「JATI-トレーニング指導者」資格試験の対策講座。(筆記対策)	2後	30	2	○	△	○	○	○	○
57	○	パーソナルトレーナー講座Ⅰ	N S C A 「パーソナルトレーナー」資格試験の対策講座(筆記対策)および、パーソナルトレーナーの基礎を習得する。	1後	30	2	○	△	○	○	○	○
58	○	パーソナルトレーナー講座Ⅱ	N S C A 「パーソナルトレーナー」資格試験の対策講座(筆記対策)および、パーソナルトレーナーの基礎を習得する。	2前	30	2	○	△	○	○	○	○
59	○	アスレティックトレーナー演習Ⅰ	日本スポーツ協会「アスレティックトレーナー」検定試験の対策講座。(筆記・実技対策)	2前	60	2	○		○	○	○	○
60	○	アスレティックトレーナー演習Ⅱ	日本スポーツ協会「アスレティックトレーナー」検定試験の対策講座。(筆記・実技対策)	2後	60	2	○		○	○	○	○
61	○	パーソナルトレーナー演習Ⅰ	クライアントのニーズに合わせた運動処方、プログラムを作成するための評価法および指導法を習得する。	2前	60	2			○	○	○	○
62	○	パーソナルトレーナー演習Ⅱ	業界のトピックや、働き方、SNSの活用法を学び自己開拓のスキルを習得する。。	2後	60	2			○	○	○	○
63	○	フィットネスインストラクター演習Ⅰ	スポーツ愛好家への運動指導・健康指導に関する専門的なスキルを習得する。	2前	60	2	○		○	○	○	○
64	○	フィットネスインストラクター演習Ⅱ	スポーツ愛好家への運動指導・健康指導に関する専門的なスキルを習得する。	2後	60	2	○		○	○	○	○
65	○	こどもスポーツ演習Ⅰ	運動や遊びを通じて身体を動かす楽しさをわかりやすく伝える技能を習得する。	2前	60	2	○		○	○	○	○
66	○	こどもスポーツ演習Ⅱ	運動や遊びを通じて身体を動かす楽しさをわかりやすく伝える技能を習得する。	2後	60	2	○		○	○	○	○
合計				66	科目	113 単位 (単位時間)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：1920時間(94単位)とする		1学年の学期区分	2期
履修方法：出席率67%以上、当該学年の全ての科目が60点以上、学外実習修了で卒業認定とする		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。